

仲間作り教養コース ④ 国際社会学

EUの生いたち、経済状況  
& 離脱問題を考える

第四回

EUの経済規模と今後の展望

日時 10月27日(土) AM10:00~

会場 鶴瀬公民館 第三集会室

講師 高崎 春華氏 (東洋英和女学院大学准教授)

受講生 39名

## 講義内容：

EU経済の現状と課題とは？

EU経済統合の展開

世界の中のEU・EU経済の現状

☆現代世界経済の特徴

### 1. 地域経済統合について

配布資料 さあ受講生への質問です。

米日の基本経済データから読み取れること



講師 高崎 美華氏

各国のグループ分けをしましょう

細かい数字から何を読み取れるのか、大学生への質問と同じ？

おさらいです。経済のグローバル化 (globalization) とは

ヒト・モノ・カネ・サービスetcの移動が地経規模で起こっていること。

ここで問題は、そう簡単には国境を超える事ができないこと。国家主義

## 2. 地域経済統合について

21世紀前半の世界経済の潮流はグローバル化と地域統合の時代  
歴史的に見ると  
地域的経済統合      地域統合は世界で370を超える地域統合協定

EU（欧州連合）の実力      総面積は日本の約10倍  
人口は日本の約4倍  
経済規模の比較      GDP成長率、一人当たりGDP、他の  
経済指標から見る—北米自由貿易協定（NAFTA）が圧倒

## 3. 統合の5つのステップ

国家としてのEU、B・バラッサの理論、  
FTA（自由貿易協定）—経済統合の利益  
市場統合—EU内のどの国においても自由  
にサービスを提供ができる

域内市場形成の道

☆スパーク報告（1956年）アメリカと原加  
盟国が競争するために      EEC条約の作成

1968年      関税同盟完成

1968年      CAP域内農産物市場の安定（フランスの主張）EU内の財政を圧迫  
零細農家との格差拡大

域内市場形成—EU経済の長期低迷、産業調整に遅れ、EM化の立ち遅れ  
経済の低成長が低成長を生む悪循環

80年代からの経済自由化とグローバル化の進展

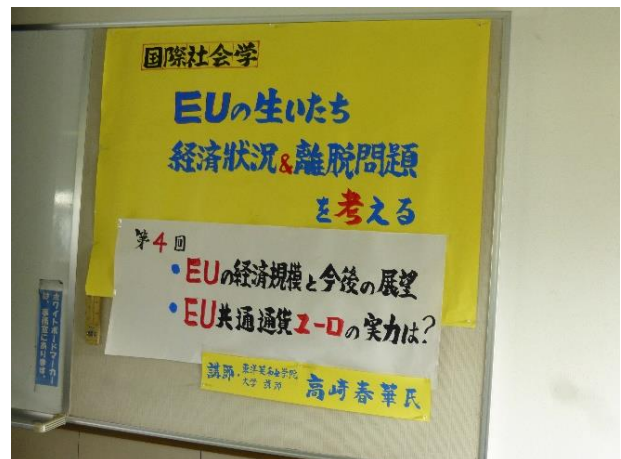
☆チェッキーニ報告（1988年）コスト削減、寡占間競争—GDP比2.1~3.7%の  
経済成長

市場統合の利益約2,160億EU（日本円で30兆円）

市場統合に向けた法整備~1992年      1993年EUの単一市場スタート

単一市場の強化

- ① デジタル単一市場
- ② 金融サービス統合の高度化
- ③ エネルギー瓶や野単一市場化
- ④ 単一市場のインフラ構築⑤他の加盟国への年金制度移転を可能にする税制改正



## 単一通貨「ユーロ」の誕生

EMU：経済・通貨同盟

歴史的経過と国際金融のトリレンマと通貨統合

- ① 自由な資本移動
- ② 固定為替相場制
- ③ 金融政策の独立性は同時成立しない

1986年東西ドイツの統一

1992年通貨危機

イギリスのブラックチュウズデー EMSから離脱 15%変動

マーストリヒト条約に基づく単一通貨ユーロ導入 2002年 1.1~2.28

現在加盟国は 19カ国

F B C：機構と機能

連邦型中央銀行、ユーロシステム 機構については講座の前半で学習した

F C Bの政策目標 物価安定

マーストリヒト条約、欧州銀行法に定められた法的義務

政治からの中央銀行の独立性を維持



## 国際通貨としてのユーロ

☆ユーロ圏—ユーロを自国の通貨として利用する諸国から構成される

19カ国で経済規模は、GDP 11,2兆ユーロ、人口 3億 3100万人

・貿易契約・決済通貨 貿易面に於いてはアメリカと並ぶ巨大エリア

・世界の貿易契約・決済通貨に用いられる通貨比率

ドル (59.4%) EU15 (25.2%) 円は凋落して (6.3%) ドルが圧倒的

・国際投資通貨 ユーロ建て債券の比率が上昇

参考文献の紹介があった。